

## 長瀬の地質の魅力再発見

清家 一馬

日本の地質学の発展に多大な貢献をした矢部長克博士は、大正9年に執筆した論文の中で“関東山地は日本地質学の搖籃なり”と表現し、群馬県甘楽地方から埼玉県長瀬・秩父地方にかけての地質が、当時日本で最も詳細に踏査され、他地域の地質調査を行う上での基礎になっていると記しています。長瀬では、結晶片岩が大規模に露出する岩畳・虎岩を含む地域が大正13年に国の名勝・天然記念物に指定されました。このような経緯もあり、長瀬は“日本地質学発祥の地”として定着するに至りました。

2011年9月、長瀬・秩父地域は念願の日本ジオパークに認定されました。秩父まるごとジオパーク推進協議会事務局では、地質と人々の暮らしの関わりをテーマとして今までほとんど知られていなかったジオスポットを発掘し、様々な企画を実施してきました。博物館でも長瀬の新たな魅力を発見すべく調査にあたっています。本稿でその一部を紹介します。虎岩・岩畳を横目に、定番の観光コースから外れてぶらり散策してみませんか。

### スポット1. 井戸はぐれ

井戸はぐれは荒川の右岸でちょうど長瀬岩畳の対岸に位置しています。“はぐれ”は崩れやすい場所で“破崩れ”が直接の語源とされています。川にせり出したこの崖（秩父赤壁）は古くから交通の難所であったため、明治14年に地元の寄付を集めて隧道が開通しました。現在は遊歩道として利用されています。開削時の削り跡が見つかるほか、対岸の岩畳を一望できます。

ここに露出しているのは石墨片岩です。片理は水平に近く、片理の垂直断面が観察できます。また、道路周辺で落ちてきた大きな転石がいくつも見かけられます。結晶片岩は硬い半面、風化すると片理面に沿って崩れやすい性質を持つことが実感できます。秩父鉄道の波久礼（はぐれ）駅周辺も同様の理由で交通の難所であった場所です。

### スポット2. 蓬萊島（ほうらいじま）

蓬萊島は秩父鉄道長瀬駅より約1km北側（下流

側）の荒川右岸に位置しています。長瀬八景のひとつであり、荒川の旧河道と現在の河道に挟まれた中州のようになっています。かつて公園として整備され、一時的に閉鎖されていましたが、現在は立ち入ることができます。対岸との行き来の要であった渡船場跡があります。

荒川に面した崖に風化面の削られた新鮮な緑泥石片岩が広く露出しており、鉱物脈・微褶曲構造が観察できます。岩畳を望む河原では、滑走斜面・攻撃斜面が明瞭に観察できます。また、長瀬ライン下りの難所のひとつがあり、迫力満点のライン下りを日当たりのよい河原からのんびり眺めることができます。

### スポット3. 番外編！ 嵐山溪谷（嵐山町・小川町）

埼玉県の丘陵地帯の西端にあたる嵐山町から小川町の槻川沿い（嵐山溪谷）には結晶片岩が露出しており、結晶片岩を深く削った溪谷は古くから景勝地として知られていました。低山に囲まれた田園風景がたいへん美しく、後北條氏が関東一円を治めていたころの城跡など歴史的風致が数多く残っています。秩父青石とならぶ緑色片岩の石材の産地として有名で、下里にある板碑製作遺跡が昨年度新たに国の史跡に指定されました。

一帯には石墨片岩が広く露出しており、一部地域に点紋緑色片岩が分布しています。この辺りの結晶片岩は長瀬で見られるものより変成度が高く、点紋とよばれる斑点が見られるのが特徴です。流水による浸食跡がいくつも観察でき、現在も広がりつつあるポットホールや滑らかに削られた露頭を川縁で観察することができます。また、河床礫の観察に適した河原がたくさんあります。

今年6月の観察会ではスポット1を紹介しました。スポット3は11月7日に実施予定の地学さんぽで訪ねます。奮ってご参加ください。その地域特有の地質が人々の暮らしに深く関わってきたことを実感していただけると期待しております。

### アクセス

1. 長瀬駅より徒歩1時間（約2.5 km）
2. 長瀬駅より徒歩30分（約1.5 km）
3. 長瀬駅より寄居駅乗換え小川町駅下車  
嵐山溪谷・下里方面へ徒歩2時間（約6.0 km）